

iTesting チャンネルによる HIV 検査体制の構築と確立のための研究

研究分担者：金子典代（名古屋市立大学大学院看護学研究科 国際保健看護学）

研究要旨

本研究は現行の HIV 検査体制に加えて様々な異なる形態の HIV 検査を実践し、より受検者にとっても医療従事者にとっても受検/施行可能な検査の導入を進める。

令和 5 年度は、アウトリーチグループとしては、検査の広報（SNS での発信・動画配信・多言語対応）、検査会を評価するためのアンケートの解析を行った。

受検者に WEB 上での自身の結果サイトへアクセスする前に、任意で WEB 上での受検者アンケートへの協力を依頼した。令和 5 年度の第 1 回の検査会では、受検者 315 名のうち 200 名（63.5%）が、第 2 回の検査会では、受検者 303 名のうち、175 名（57.8%）が、第 3 回では受検者 316 名のうち、185 名（58.8%）がアンケートに回答した。本研究では、令和 4 年度から令和 5 年度に計 6 回実施したアンケートデータのうち、初の iTesting 受検であったものに限定し、ゲイバイセクシュアル男性とそれ以外の男性の 2 群、またさらに iTesting が生涯初の HIV 検査であったもの、それ以外の 2 群に分けて解析を行った。

検査受検者の背景を GBM と non-GBM で比較した結果、GBM のほうが年齢層が若く、過去 1 年の HIV 検査受検経験、STI 罹患歴が高かった。GBM、non-GBM いずれにおいても生涯で初の HIV 受検のほうが年齢が若かった。

検査会を知った情報源は、GBM については、GPS 付出会い系アプリが最も多く、名古屋市ウェブサイトが続いた。non-GBM については、名古屋市 WEB サイトが最も多く、地下鉄の広告が続いた。また今後希望する検査については、土曜日オープンしている病院、クリニックを挙げたものが最も多かった。

A. 研究目的

本研究は現行の HIV 検査体制に加えて様々な異なる形態の HIV 検査を実践し、より受検者にとっても医療従事者にとっても受検/施行可能な検査の導入を進める。最終的には、マニュアル策定を目指す。令和 5 年度は、受検者アンケートについて、男性に限定し、セクシャリティ別、さらに生涯検査経験別に比較し、受検者背景の比較、iTesting を知った情報源を明らかにした。また対象者全体における今後利用したい検査の種類について明らかにした。

B. 研究方法

アウトリーチグループ：HIV 検査の重要性を説明した啓発資料の作成および設置、検査の広報（SNS での発信・動画配信・多言語対応）、検査を評価するためのアンケートの作成（多言語対応）・解析、検査施行可能な場の模索、各コミュニティでの啓発活動、多言語対応した iTesting ウェブサイトの作成を行う。

本研究では、2022 年から 2023 年にかけて全 6 回にわたり実施してきた受検者への質問紙調査データ 5 回分初回受検者のみのデータ

（N=589）を解析した。ゲイバイセクシュアル男性群（以下 GBM とする）と non-GBM の 2 群を設定し群間比較を行った。さらに、生涯で HIV 検査を受けたことがあるもの、ないものの 2 群に分けたうえで群間比較を行った。

ゲイバイセクシュアル男性と GBM 以外の non-GBM の群分けは、GBM は自認するセクシュアリティをゲイ、バイセクシュアルと自認するものとし、non-GBM はそれ以外の男性とした。これまでの HIV 検査経験別の比較は、iTesting 受検以前にも HIV 検査を受けたことがあるものと、iTesting が生涯初めての HIV 検査であった 2 群に分けて実施した。

（倫理面への配慮）

検査は予約からすべて匿名検査で行っている。またアンケート調査も匿名検査で行い、名古屋医療センターまたは名古屋市立大学の研究倫理審査を受けて行う。受検者アンケート調査については令和 4 年度に名古屋市立大学看護学研究科の倫理審査を受審の上実施している。

C. 研究結果

＜受検者アンケートの実施＞

受検者に WEB 上での結果サイトへアクセスする前に、任意で WEB 上での受検者アンケートへの協力を依頼した。令和 5 年度の第 1 回の検査会では、受検者 315 名のうち 200 名 (63.5%) が、第 2 回の検査会では、受検者 303 名のうち、175 名 (57.8%) が、第 3 回では受検者 316 名のうち、185 名 (58.8%) がアンケートに回答した (表 1)。

全 6 回分の受検者アンケート回答の基礎統計、回答分布比較は巻末資料に示す。

1. GBM と non-GBM の基本属性、検査行動、性感染症の既往 (表 1)

GBM と non-GBM においては、セクシュアリティ、国籍、居住地、就労区分、HIV 検査の受検経験、直近の検査の受検場所、梅毒、B 型肝炎の自己申告の既往歴において、有意差がみられた。

GBM の方が non-GBM より外国籍の割合が高く (7.5% vs 2.8%)、県外の居住者が多く (20.2% vs 6.8%)、正社員の占める割合が低かった (69.7% vs 79.5%)。これまでの HIV 検査の受検経験は、GBM は 73.1% であり、non-GBM は、40.9% であった。直近の検査場所については、GBM の方が non-GBM より、イベント検査 (13.5% vs 0.9%)、郵送検査を利用する割合が高かった (11.3% vs 2.8%)。

性感染症の既往は、梅毒は GBM は 13.0% と non-GBM の 5.2% より有意に高かった、一方でクラミジアは GBM は 9.0%、non-GBM の 15.2% であった。B 型肝炎は GBM は 6.5%、non-GBM は 0% であった。

2. セクシュアリティ群別の HIV 検査経験と基本属性、性感染症既往 (表 2)

GBM においては、HIV 検査経験の有無と、年齢、セクシュアリティ、就労区分、梅毒、クラミジアの既往に有意な関連が見られた。

GBM においては、HIV 検査経験がない人のほうが 29 歳以下が多く、バイセクシュアルの割合が高かった。

就労についても検査経験がない人のほうが正社員割合が低かった。性感染症の既往は、HIV 検査経験のないもののほうがいずれも低かった。

non-GBM においては、HIV 検査経験がない人のほうが 29 歳以下が多かった。性感染症の既往については、梅毒については有意差があり、HIV 検査を受けたことがあるもののほうが既

往歴は高かった (8.5% vs 2.6%)。

3. iTesting のことを知った場所 (図 1-2)

検査会を知った場所については、GBM については、HIV 検査の有無にかかわらず、GPS 付き出会い系アプリが最も高く、名古屋市ウェブサイトが続いた。non-GBM については、HIV 検査経験にかかわらず名古屋市ウェブサイトが最も高く、市営地下鉄広告が続いて多かった。

4. 今後希望する検査の種類 (図 3)

今後希望する検査については、いずれの開催回においても、土曜日もオープンしている病院、クリニックでの検査受検希望が最も多く、平日夜もオープンしている病院、クリニックでの検査が続き、コミュニティ検査での検査の受検希望が続いた。なお、こちらの集計はアンケート回答者全数を対象に作成している。

検査会の受検者、予約数、アンケート回答率

R4 第1回検査会(6月26日(日))
・受検者数 246 名(予約数 300 名、キャンセル率 18%)
・結果確認済み受検者 245 名
・アンケート回答者数 189 名、回答率 76.8%

R4 第2回検査会(9月4日(日))
・受検者数 270 名(予約数 340 名、キャンセル率 21%)
・結果確認済み受検者 270 名
・アンケート回答者数 180 名、回答率 66.7%

R4 第3回検査会(12月4日(日))
・受検者 286 名(予約数 341 名、キャンセル率 16.1%)
・結果確認済み受検者 286 名
・アンケート回答者 187 名、回答率 65.4%

R5 第1回検査会(6月25日(日))
・受検者数 315 名(予約数 341 名、キャンセル率 10%)
・結果確認済み受検者 315 名
・アンケート回答者数 200 名、回答率 63.5%

R5 第2回検査会(9月3日(日))
・受検者数 303 名(予約数 341 名、キャンセル率 13%)
・結果確認済み受検者 303 名
・アンケート回答者数 175 名、回答率 57.8%

R5 第3回検査会(12月10日(日))

・受検者 316 名(予約数 350 名、キャンセル率 9.8%)

・結果確認済み受検者 315 名

・アンケート回答者 185 名、回答率 58.8%

D. 考察

男性検査受検者の背景を GBM と non-GBM M で比較した結果、GBM のほうが年齢層が低く、過去 1 年の HIV 検査受検経験、STI 罹患歴が高かった。

GBM のほうが HIV 検査への意識、関心が若年期から高いことが示唆される。また日本では MSM においては、梅毒は持続的に感染が続いており、コミュニティセンター等で継続的に梅毒の予防啓発を実施している。STI 罹患歴も non-GBM 受検者より高く、GBM のほうが STI の感染リスクが高く、STI 検査受検機会が多かった GBM が来場していることが示唆される。

GBM、non-GBM いずれにおいても iTesting が生涯で初の HIV 受検であった受検者のほうが年齢層が若かった。検査を初めて受検しようと考え、初の受検行動に至るのはセクシャリティにかかわらず若者に多いことが示された。生涯初の検査をいかに促進するかはエイズ対策においても重要であり、大学生や社会に出る前の若者への効果的な啓発を探ることも重要と考える。

検査会を知った情報源については、GBM については、GPS 付出会い系アプリが最も多く、名古屋市ウェブサイトが続いた。non-GBM については、名古屋市 WEB サイトが最も多く、地下鉄の広告が続いた。より検査を受けたことがないものに検査を提供するためには、若年層にアプローチし、GBM も non-GBM も両方にも訴求力の高いものとするためには、GPS 付アプリの広告、名古屋市の WEB サイトの併用が重要と考えられた。

今後希望する検査については、土曜日オープンしている病院、クリニックが最も高かった。平日夜オープンの機関よりも土曜日オープンしている医療機関へのニーズが高く、あらためて土曜日オープンしているクリニックが HIV、STI の検査受検先としてニーズが高いことが示唆された。GBM、non-GBM にかかわらず、コミュニティセンターでの受検希望も一定層みられた。ゲイバイセクシュアル男性に対しては、2000 年代から各地でコミュニティセンターが開設、運営されている。東海地域の名古屋市にあるコミュニティセンターでは、検査は提

供されていないが、ニーズは一定にあることが示された。

Non-GBM においても、コミュニティセンター(公民館)等での HIV 検査ニーズは一定数存在し、HIV 検査を特別にプライバシーが配慮される場所でもなくとも、身近な施設で提供しても利用層がいる可能性が示唆された。

E. 結論

全 iTesting 検査会で受検者アンケートを実施した。

検査受検者の背景を GBM と non-GBM で比較した結果、GBM のほうが年齢層が若く、過去 1 年の HIV 検査受検経験、STI 罹患歴が高かった。GBM、non-GBM いずれにおいても生涯で初の HIV 受検のほうが年齢が若かった。

検査会を知った情報源は、GBM については、GPS 付出会い系アプリが最も多く、名古屋市ウェブサイトが続いた。non-GBM については、名古屋市 WEB サイトが最も多く、地下鉄の広告が続いた。また今後希望する検査については、土曜日オープンしている病院、クリニックが最も高かった。

F. 研究発表

1. 論文発表

- 高久道子, 金子典代, Myagmardorj Dorjgotov, Naympurev Garjanjams, Erdenetuya Gombo, 塩野徳史, 市川誠一: モンゴルの Men who have sex with men (MSM) における HIV に対するスティグマ低減を目指した啓発プログラムへの参加と HIV 検査行動との関連. 日本エイズ学会誌, 受理済み, 2023
- 金子典代, 健山正男, 和田秀穂, 高久陽介, 宮城京子: HIV 治療通院中の MSM における急性感染期の医療機関の受診、受診先での HIV 検査の受検、性感染症の既往. 日本性感染症学会誌, 受理済み, 2023

2. 学会発表

国内

- 金子典代: 1st95 達成に必要な施策. Fast-Track Cities Workshop Japan 2023, 東京, 2023
- 金子典代, 岩橋恒太: デジタルディスペンサーを活用したゲイバイセクシュアル男性対象の HIV・梅毒検査キット配布プログラムの実施. 第 31 回日本健康教育学会学術大会,

東京, 2023

3. 岩橋恒太、金子典代、本間隆之：本邦における MSM を対象とした Mpox 流行時における知識・関心・行動の検討：全国 MSM 対象のオンライン横断調査．第 37 回日本エイズ学会学術集会・総会、京都、2023
4. 金子典代、国見亮佑、太田貴、星野慎二、岩橋恒太、石田敏彦、塩野徳史、町登志雄、新山賢、舩石翔馬、玉城祐貴：郵送検査利用者アンケートから見た利用者属性、自己採血の困難感について－対面配布と WEB 配布の受け取り 2 群間の比較－．第 37 回日本エイズ学会学術集会・総会、京都、2023

G. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

表1 受検者の属性、検査経験、性感染症の既往

	GBM(N=376)		non-GBM(N=264)		合計		有意差	
	N	%	N	%	N	%		
年齢区分								
	29歳以下	107	28.5%	65	24.6%	172	26.9%	0.17
	30～39歳	113	30.1%	68	25.8%	181	28.3%	
	40～49歳	79	21.0%	59	22.3%	138	21.6%	
	50歳以上	77	20.5%	72	27.3%	149	23.3%	
セクシュアリティ								
	男性同性愛者（ゲイ）	272	72.3%	0	0.0%	272	42.5%	0.00
	両性愛者（バイセクシュアル）	104	27.7%	0	0.0%	104	16.3%	
	異性愛者（ヘテロセクシュアル）	0	0.0%	203	76.9%	203	31.7%	
	分からない・その他	0	0.0%	61	23.1%	61	9.5%	
国籍 *								
	日本	185	92.5%	205	97.2%	390	94.9%	0.03
	その他	15	7.5%	6	2.8%	21	5.1%	
居住地区分								
	名古屋市	170	45.2%	170	64.4%	340	53.1%	0.00
	名古屋市以外愛知県	130	34.6%	76	28.8%	206	32.2%	
	愛知県以外	76	20.2%	18	6.8%	94	14.7%	
就労区分								
	正社員	262	69.7%	210	79.5%	472	73.8%	0.01
	非正規自営パートアルバイト	68	18.1%	25	9.5%	93	14.5%	
	無職学生その他	46	12.2%	29	11.0%	75	11.7%	
これまでのHIV検査の受検経験								
	ない	101	26.9%	156	59.1%	257	40.2%	0.00
	ある	275	73.1%	108	40.9%	383	59.8%	
直近のHIV検査の受検場所								
	病院クリニック	41	14.9%	18	16.7%	59	15.4%	0.00
	保健所	105	38.2%	57	52.8%	162	42.3%	
	行政日曜繁華街検査	59	21.5%	27	25.0%	86	22.5%	
	イベント検査会	37	13.5%	1	0.9%	38	9.9%	
	郵送検査	31	11.3%	3	2.8%	34	8.9%	
	その他	2	0.7%	2	1.9%	4	1.0%	
直近のHIV検査の受検時期								
	過去1年の間	120	43.6%	36	33.3%	156	40.7%	0.06
	過去1年より前	155	56.4%	72	66.7%	227	59.3%	
性感染症既往 *								
	梅毒	26	13.0%	11	5.2%	37	9.0%	0.01
	クラミジア	18	9.0%	32	15.2%	50	12.2%	0.06
	淋病	9	4.5%	16	7.6%	25	6.1%	0.19
	B型肝炎	13	6.5%	0	0.0%	13	3.2%	0.00

* 2022年度第3回から追加した項目のため、回答数が他と異なる

表2 検査経験別の基本促成、性感染症の既往

	MSM (N=376)					p値	nonMSM (N=264)					p値
	HIV検査経験あり (N=275 73.1%)		HIV検査経験なし (N=101 36.9%)		HIV検査経験あり (N=108 40.9%)		HIV検査経験なし (N=156 59.1%)					
	N	%	N	%	N		%	N	%			
年齢区分												
	29歳以下	59	21.5%	48	47.5%	0.00	19	17.6%	46	29.5%	0.02	
	30～39歳	85	30.9%	28	27.7%		24	22.2%	44	28.2%		
	40～49歳	63	22.9%	16	15.8%		26	24.1%	33	21.2%		
	50歳以上	68	24.7%	9	8.9%		39	36.1%	33	21.2%		
セクシュアリティ												
	男性同性愛者（ゲイ）	211	76.7%	61	60.4%	0.00	0	0.0%	0	0.0%	0.38	
	両性愛者（バイセクシュアル）	64	23.3%	40	39.6%		0	0.0%	0	0.0%		
	異性愛者（ヘテロセクシュアル）	0	0.0%	0	0.0%		86	79.6%	117	75.0%		
	分からない・その他	0	0.0%	0	0.0%		22	20.4%	39	25.0%		
国籍 *												
	日本	138	93.9%	47	88.7%	0.22	93	98.9%	112	95.7%	0.16	
	その他	9	6.1%	6	11.3%		1	1.1%	5	4.3%		
居住地区分												
	名古屋市	130	47.3%	40	39.6%	0.05	63	58.3%	107	68.6%	0.32	
	名古屋市以外愛知県	98	35.6%	32	31.7%		35	32.4%	41	26.3%		
	愛知県以外	47	17.1%	29	28.7%		10	9.3%	8	5.1%		
就労区分												
	正社員	204	74.2%	58	57.4%	0.00	85	78.7%	125	80.1%	0.90	
	非正規自営パートアルバイト	51	18.5%	17	16.8%		10	9.3%	15	9.6%		
	無職学生その他	20	7.3%	26	25.7%		13	12.0%	16	10.3%		
性感染症既往 *												
	梅毒	26	17.7%	0	0.0%	0.00	8	8.5%	3	2.6%	0.05	
	クラミジア	17	11.6%	1	1.9%	0.03	18	19.1%	14	12.0%	0.15	
	淋病	8	5.4%	1	1.9%	0.28	9	9.6%	7	6.0%	0.33	
	B型肝炎	12	8.2%	1	1.9%	0.11	0	0.0%	0	0.0%		

* 2022年度第3回から追加した項目のため、回答数が他と異なる

図1 検査会をどこで知ったか GBM
(N=376)

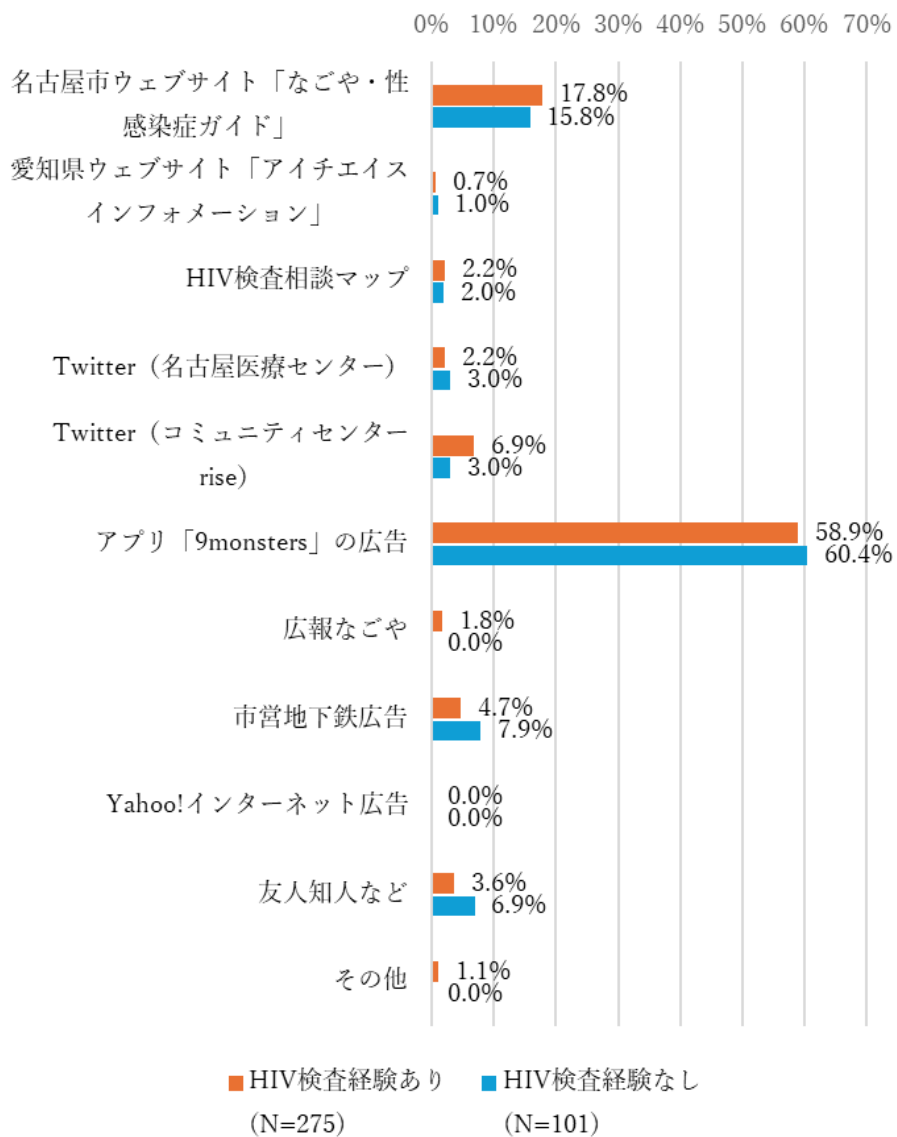


図2. 検査会をどこで知ったか non-GBM
(N=264)

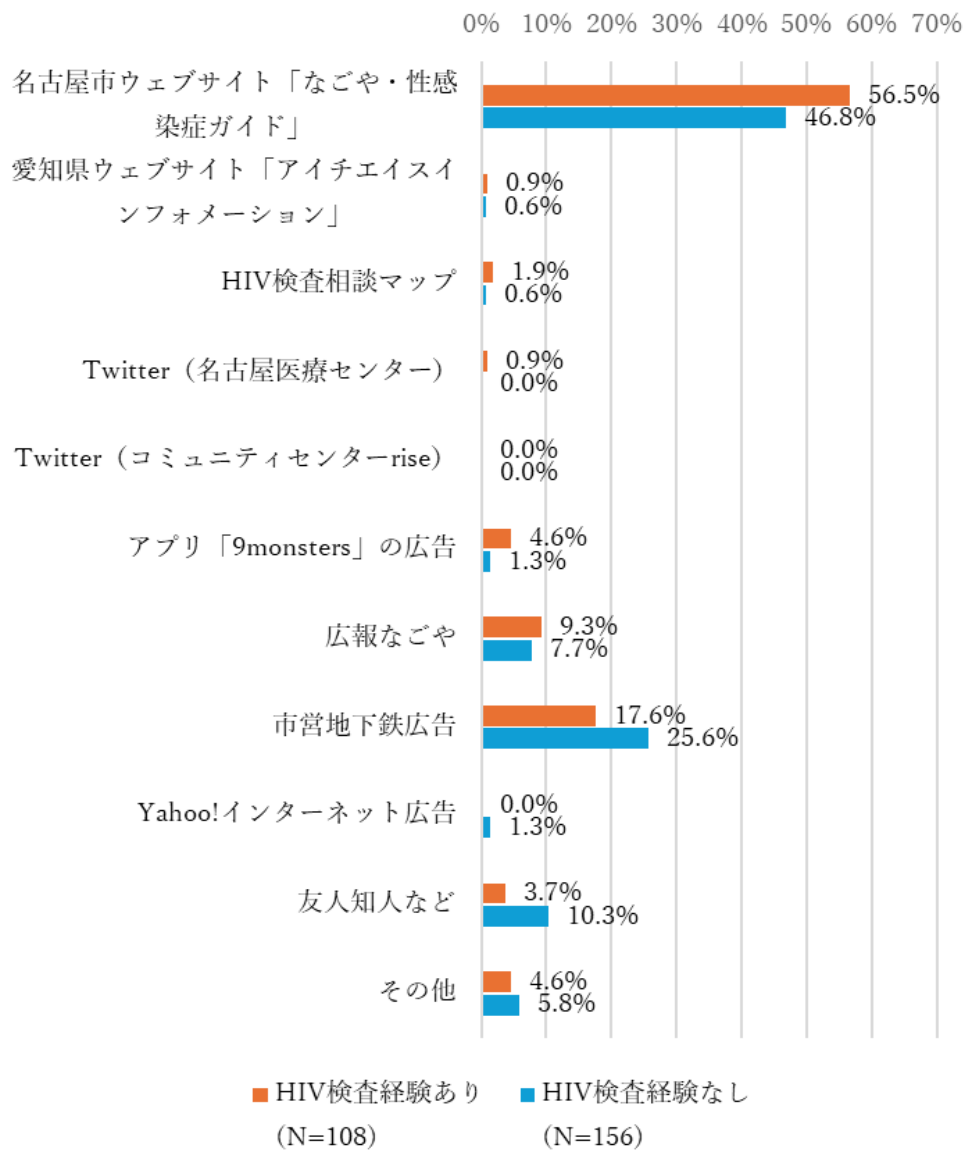


図3. 今後、希望する検査場所（複数回答）

